

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営理念をフロアに掲示し、全スタッフに認知の徹底をしている。	○	グループホームのパンフレットやホームページなどにもうたっている。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々意識して取り組んでいる。	○	常に頭におきながら介護しているが、たまに忘れてしまうので緊張感をもって取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時に御家族様には言葉・文章にして説明している。	○	地域の人々には理解されていないが、家族には理解していただいていると思われる。地域の方々が訪問して頂けるよう働きかけが必要。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホームで開催する七夕祭り時の焼肉パーティーに近隣のお年寄り、民生委員さん、お孫さんが参加している。	○	スタッフは友達にグループホームを知って頂くために「ホームの見学に気楽に立ち寄ってください。」と声掛けし、又訪問もある。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会へ入会している。	○	自治会・老人会・行事などへの参加はされていないが、町内会に働き掛け参加できるよう要望する。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	御家族の了解を得てふれあい便りを配布している。便りには地域の方々に認知症を理解していただける様キャラバンメイトの資格を持ってスタッフが一口メモとして認知症という病気をわかりやすく言葉にして連載している。	○	今現在行われていないが、今後考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価後、改善に取り組んでいる。	○	良い評価をうけている。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	H18年度2回、H19年度は2月5月に実施しました。ホームの状況や出来事を御家族に報告、又御家族から色々な要望があり、すべて要望に応じている。	○	
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	サポートしていただきサービスの向上に取り組んでいる。		受け入れ態勢はあるが受託していない。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者・ケアマネ・が小樽医師会主催の成年後見制度の概要と問題点について弁護士 関口正雄氏の講演に参加した。	○	勉強会があれば参加していきたく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束・虐待は一切行われていない。	○	虐待がないよう十分心して介護していきたく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	言葉書類(文章)にして説明している。		御家族様には利用者様の権利等を文章及び契約書にわかりやすく示し、入居者様及び御家族様に説明し同意を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見・苦情などを聞いた時は管理者職員へ報告している。</p>	<p>○</p>	<p>利用者様の声には居室に行ってお話を伺ったりしている。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>月1回の担当スタッフからのお手紙や電話で報告している。 金銭面については収支を月締めにして御家族が来訪時に説明、確認してもらっている。</p>	<p>○</p>	
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年数回家族会を開き意見・不満・苦情などを聞き出し、運営にひ्यान衛させている。</p>	<p>○</p>	
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>責任者会議・フロアミーティング・個人面接など意見・提案を聞く機会が設けられ反映させている。</p>	<p>○</p>	
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>緊急時の連絡網などで対応。 入居者の状況に合わせてローテーションが組まれている。</p>	<p>○</p>	
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>努力はしているが、職員の都合により離職される場合や移動などがある。</p>		<p>利用者様から職員への様々な問題、提起に対しても上の者はスタッフの意見を取り上げながら行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修を受けている。</p>		<p>研修に対しても職員の勤務ローテーションに支障がないよう考慮されている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>諸施設には日頃から働き掛け研修会などで交流、グループホーム協議会を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>グループホームの設立が相次ぐ中なので今後も共に学び合い、情報交換していけるよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>新年会・忘年会など企画、ストレス軽減される環境作りに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員は心の中に仕事への情熱や他人への愛情を持つことが大切だが、運営者は気持ちの余裕をもって働けるよう、又、謙遜になって助言を受けられるよう導くことが必要である。</p>		<p>できるなら、社員にはその能力・実績に応じ賞与等を考えてほしい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>事前に面接の上、本人の意見を尊重し対応にむけ検討している。</p>		<p>一日の業務に追われ入居者様一人一人のお話を十分に聴く時間が取れない事もあるので時間が取れるよう努力していきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>安心感が得られるよう、家族と十分に話し合いをし、不安を取り除く努力をしている。</p>	○	<p>遠隔地にいる、御家族様には、より密接に連絡を取り合えるようにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談にて対応している。		話しやすい関係を築いていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	徐々に馴染めるように本人のペースを見極めてサポート、支援し御家族様と相談している。		本人の気持ちを大切にしながら行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の人生経験を尊重しつつ、共に喜び・支えあう関係を築いている。		時には泣いたり、笑ったりして同じ気持ちになることで一層親しくなっている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様の意見を聞いて情報を交換し共に支えていく関係を築いている。		御家族様の方が職員に対し「知られたくない」「言いたくない」などの壁を作っている方もおられるのでお互いのプライバシーを侵害しない事を頭において心が通じ合えるよう努力していきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	季節ごとに行事を行い、参加を尾長いしている。		御家族様から近づくのを待つだけでなく職員の方からも積極的に話かけていくことで普段からより親しい関係を築いていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係が途切れないように支援している。 ・お寺のつき命日のお参り ・神父さんの来訪		病院受診等で友人に会える曜日を考慮し受診している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の個性をしっかり受け入れ、利用者様同士の課から利についてスタッフが上手に働き掛け、いい関係を築いていけるよう努めている。	○	必ずスタッフが中に入りトラブル防止に努めている。個別に双方の話を聞き対応している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院し退居されていても時々、お見舞いについて様子を伺っている、家族は娘さん1人で地方住まいでもあり相談相手になってほしいと希望し今後も継続的に付き合いする事とした。	○	今後も娘さんの相談相手になること。入院先にも時々状態を見に行っている。入院先の病院にもホームが連絡先になっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望にそえるよう努めている。	○	本人の喜べるサービスを続けてゆくと共に変化していく希望にも対応していく。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人、家族からの聞き取り、担当のケアマネより情報を得ている。又、日々の会話の中に暮らしの意向など聞き取れることあり。		入居前からじっくり話を聴き、より密着したサービスができるよう援助している。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝の申し送り、特変時の送りにて把握している。		把握できるようスタッフ全員が取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケア担当スタッフが本人の家族より聞き取り調査し、アセスメントをとり介護支援専門委員と一緒にプラン作成しフロア会議にてケアプランを作成している。		関係者全てとの話し合いのもと実行している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月1回のフロア会議にて問題点の抽出とサービスの強化の統一、又3ヶ月毎のアセスメントチェックとモニタリング、6ヶ月に1回のプラン作成をする。状態が変化した場合は話し合いで計画を見直す。	○	入居者様の状態・状況に合わせて計画は見直されるべきなので状態の変化に敏感でありたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別日報にて情報を共有し、介護計画の見直しに反映してる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方には身寄りのない入居者様の対応の仕方、消防署には年1回の消防訓練の依頼など協力頂いている。		その時々々に応じ各機関等の協力を得ながら行っている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	されている(他のケアマネの支援で自宅に帰居された利用者様がいる。)		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	協力されている。		今年からの取り組みとなるので今後一層、センターと協力しながら、より良い支援ができるよう協力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携病院の先生に相談し指示を得ている。又、提携病院の看護職員にサポートして頂いている。		かかりつけ医とは普段から連絡等し気軽に相談できる関係になっておく必要があるがだいたい出来ている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	確保出来ている。		その都度相談、又、入院・治療も出来る態勢になっている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員として採用されていないがスタッフの一員として在籍している。通院先の看護師とは気軽に相談できアドバイス頂ける関係は築けている。		かかりつけ医療機関にも相談できる看護職員がいる。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者(相談員)、病棟の師長を頻回に面会、病状の経過や退院の時期などホームの体制など情報交換している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	身寄りのない高齢な入居者様には元気な時にそれとなく終末期をどのように迎えたいかを聞き出し、ホームの希望時はかかりつけ医師と繰り返し相談、対応の仕方のアドバイスを頂き、又スタッフに本人の意向、ホームとしての方針を打ち出し穏やかに終末期を迎えられるように支援していく。		これからますますこの方向に向かっていくのは必至の為避けるのではなく日頃から方針について全ての関係者が知っておく必要がある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討	介護についてはかかりつけ医にアドバイスをいただき、又終末期の対応については市の福祉課や市域抱括支援センター、民生委員に相談し今後の対応・検討・準備を行っている。		市や今年からは地域抱活支援センターなどの協力もいただいて対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>息子夫婦と同居した例 息子さんは今すぐにも同居を望んだが本人が判断できず外泊を繰り返し、本人納得の上退居となる。息子さんと相談しつつ本人が納得するまでそっと見守った(本人決断15日後に退居)</p>	○	<p>安心して住み替えできるよう本人及び関係者と十分に話し合っている。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>スタッフ一人一人が気をつけている、又個人情報もしっかり保管している。</p>		<p>個人情報については他の利用者様に知られないように気をつける。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>スタッフの思いを押し付けるのではなく、本人の能力に合わせ短文での声掛け、又メモを見ていただくなど自分で決める、納得できるよう引く介護を心がけている。</p>		<p>できる限り本人様の意志に添うようにしている。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人のペースを尊重しつつゆったり過ごしていただけるよう心がけている。</p>	○	<p>個別に対応し安心していただく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月に一度、出張理美容を利用している。</p>		<p>プライドを大切に、強引なアドバイスはしない。あくまでも個人の好みに添って行う。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>スタッフ以外の方が台所に入るのを嫌がる方がいるため困難であるが、食器の後片付けは少しずつ改善されている。</p>	○	<p>食事の支度(いもの皮向きや味付けなど)徐々に行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	当フロアでは飲酒される人はいないが、いるとすると医師の許可をいただき飲酒は出来る。 喫煙者に対しては本数のチェック、又場所を決めスタッフ見守りにて喫煙する。		果物・漬物・タバコ等それぞれに好むものを用意し楽しく過ごせるよう支援している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間ごとのトイレ誘導や声掛けを行っている。		便秘対策として～日間、排便がなかったらラキソ等をしようしている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合を決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	3日に1回の入浴、時間帯は13:30～15:30で1人の入浴時間は本人の希望する時間内(30～40分) 同性の介助者1人が必ず介助にあたる。		入浴の順番は譲り合うことで何かと維持されているがどうしても1番に入りたい人ばかりだと難しい場合がある。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の睡眠が夜間の睡眠障害になってないかを見極め、昼夜逆転するようであれば日中ホールで過ごして頂く、楽しめるようなレクなどを行い日中の覚醒を促している。又、夜間の睡眠に障害がない場合はその人の生活習慣ととらえている。		昼夜逆転になるなど睡眠パターンがくるわないよう生活リズムを作る。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・強制はせず本人の役割として、得意とする分野で掃除・茶碗洗いなどをして頂いている。 ・月1度、全フロア集合にて講師を招き「歌声広場」を実施している。 ・個別にカレンダー作り、貼り絵など。		興味があっても身体の状態ゆえにすることができない方に出る支援を考慮中。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	5千円まで本人手持ちとしている、その他生活必需品代としてホーム預かりとし管理、残金チェックをしている。 又、本人、家族に預かり金の内訳を一覧表にして提示している。		ほとんどの方はスタッフ任せになっているが外出の時などに買い物できるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブ、買い物などフロアー全員での外出又、は希望者をつのり実施している。 ・春から初秋にかけ外出する機会を多く持つようにしている。		体調や身体の状態により外出したくなくなっている方が多くなっている。できるだけ外の空気を吸えるよう努力していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・家族参加にて温泉一泊旅行の実施。 ・個別に行ってみたいと訴える入居者は今の所ないが、もしあれば家族と相談し対応していくことはできる。		ドライブ・水族館・一泊旅行・回転寿司・100均での買い物なども行っている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望した時はいつでも対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪者にはお茶やコーヒーをお出ししている、又、時には食事を一緒にとっていただいたりしている。		挨拶と笑顔を忘れずに行くと共に顔を覚えるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は一切していない。		病気により攻撃的になってしまったかたにも使用していない。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や日中玄関には鍵をかけていない。		人により居室に鍵を掛ける方もいらっしゃるが個人的習慣である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に安全に配慮している。 転倒のリスクの高い人には日中はスタッフの目の届く範囲内で過ごして頂く、夜間は巡回を頻回にする。</p>		<p>居室に関してはどうしても目が離れがちなのでプライバシーに配慮しながら訪室し様子を伺っている。</p>
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物などは持っている人はいない。針などは本数を決め時折り本数の把握をしている。</p>		<p>裁縫道具や大工道具など危険な物品には特に注意している。</p>
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>救急対応の研修は行っている、又、マニュアルを作成しファイルしている。</p>		<p>一人一人の状態をよく知るにより対応している。 同人であっても昨日と今日では違うかもしれないという事も頭においておく必要がある。</p>
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>定期的ではないが行っている。</p>		<p>個人的に勉強するのも大切だが様々な訓練の場があれば参加し、実際に訓練を受けていきたい。</p>
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>非難訓練を年に一回行っている。</p>		
<p>72 ○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族に説明し、現状を知って頂くようにしている。</p>		<p>危険性だけでなくその対応策も一緒に考えている。 抑圧されているように感じないような対応策にしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化に気付いたら速やかに主治医に相談・指示をうける。		早期発見のためには一人一人の状態をスタッフ全員が把握していなければならない。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から薬の説明書をファイルし保管し理解している、血圧の薬の変更があったときは血圧測定を毎朝行い薬効を確かめている。		薬が変わった時、又、病院が変更になる事もあるので必ず確認しスタッフ皆に伝わっていなければならない。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック、水分チェックを入れ、食材に注意し、リハビリ体操などに取り組んでいる。		体を動かすことが出来ない状態の方もいるので難しいが、出来る方にはできるだけ動くよう働きかけをやっていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアをするよう声掛けを行っている。 入れ歯は毎晩ポリデント(洗浄剤)につけている。		いつも決まった方だけが行っているのでは全員で行えるように話し声掛けといった働きかけをしていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分チェックは個別日報記録し注意している。 嫌いな食べ物、苦手な食べ物がメニューにある時は代替品を提供している。		一人一人の好みや、食欲なども考え十分栄養が摂れるよう健康管理に努めていきたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ファイルしてある。又、ノロウイルスに関しては掲示している。		食物には注意を払い、特に生もの、貝類等を避けるなどしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 ○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日ふきん・まな板など消毒してる。 新鮮で安全な食材を使用し賞味期限切れの物はしようしない。</p>		<p>夏場は特に管理・十分注意したい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>植木や花など飾り温かく過程的な雰囲気を作り出している。</p>		<p>狭い空間の為出来る事は限られるが季節感を表すものや、心温まる入居者様の作品なども飾る事ができたらと思う。</p>
<p>81 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭的な作りになっている。 季節感を感じるよう壁面にスタッフ、入居者様が一緒に作品を作り掲示、又造花ではあるが食卓テーブルに花を飾っている。</p>		<p>トイレにはトイレという場所が認識できるようにドアに紙が貼られている。又、使用中の札もある。</p>
<p>82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個室にプライバシーが保たれている。 ホール内にソファ設置又、個人のお気に入りの場所には一人掛けのソファを設けている。</p>		
<p>83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各個室に飾り棚を設置、なじみの品、記念写真、仏壇、使い慣れた家具など、本人の好む物が配置されている。</p>		
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>室内に温度・湿度計を設置し温度調節は各部屋にストーブがあり、個人の好みの温度が保てるようになっている。チェック表記入、冬期間、乾燥するため加湿タオルを設置している。</p>		<p>チェック表があり一目瞭然。 冬機関は各居室には加湿タオルを設置している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーになっている。 廊下、トイレ、浴室に手すりがついている。	○	各居室にも手すりがほしい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	現状を良く見直し、原因となる要因をつきとめ、その後の対応に生かしている。	○	現状の見直しとその為の対策を考えていきたい。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭に畑を作り、収穫した野菜は食べている。玄関廻りに花を植え、ベンチを置き暖かい雰囲気をつくっている。	○	限られた空間の中でもう少し楽しめるものも取り入れていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98 職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 「毎日を安全に暮らせ、スタッフ・入居様様が快適な雰囲気の中で暮らしていけるよう心がけています。」